

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 922 号	氏名	林田 咲
学位審査委員		主 査	鮎瀬卓郎
		副 査	朝比奈 泉
		副 査	村田比呂司
論文審査の結果の要旨			
1. 研究目的の評価			
<p>本研究は、集中治療室（ICU）における人工呼吸器装着患者のブラッシングと洗浄の効果、さらに消毒薬と抗菌薬の局所応用による口腔内細菌数の増殖抑制効果について検討している。本研究は予備的研究ではあるが、人工呼吸器関連肺炎（VAP）の予防を目的とした口腔ケア方法の確立に貢献できる可能性が十分あり、研究目的として妥当である。</p>			
2. 研究手法に関する評価			
<p>集中治療室（ICU）の人工呼吸器装着患者に対して、予定手術は術前日の口腔ケア前後、挿管状態では緊急入室を含め口腔ケア前、ブラッシングと粘膜清拭後、洗浄後、口腔ケア 3 時間後に中咽頭貯留液と舌背を細菌数測定装置により測定することで手技と経過による細菌数増減をケア方法の有効性と関連させて評価した。口腔がん患者を対象に頸部郭清術の挿管中に対照群、ポピドンヨード群、テトラサイクリン群で口腔内細菌数の測定を行い、テトラサイクリン群で著明な細菌増殖抑制効果があることが示された。以上において研究手法は妥当であると考えられた。</p>			
3. 解析・考察の評価			
<p>本研究により、ブラッシングと粘膜清拭では中咽頭貯留液の細菌数を減少させる効果はなかったが洗浄を追加することで中咽頭貯留液と舌背ともに細菌数は有意に減少したことから、人工呼吸器装着患者の口腔ケアは歯垢除去を目的としたブラッシングと粘膜清拭だけでなく、洗浄法を行う必要があることが示された。さらにその効果は最低 3 時間しか持続せず、効果を保つためには頻回な口腔ケアが必要であることが考えられた。この結果より機械的清掃には限界があると考え、化学的清掃の検討として口腔内薬物局所応用を行った結果、テトラサイクリン軟膏の舌背塗布は著明な細菌増殖抑制効果をもとめ今後耐性菌や薬剤の選択の検討など課題はあるが有効な手法と考えられた。本論文は洗浄と薬物局所応用の効果を示唆し、今後の VAP 予防に対する口腔ケア方法の確立に貢献できると期待され、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値すると判断した。</p>			